



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第44期 第1号

2024年5月2日
発行者:小泉基

《神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。》

(ペトロの手紙一4章10節)

小泉 基

戦後まもなく朝鮮戦争が勃発し、多くの在日韓国・朝鮮人が母国への帰国を断念した頃のことです。植民地出身の”日本人”とされ、母国語を話すことも、母国の歴史を学ぶことも、自分の名前を使うことさえ禁じられてきた数十万人もの在日の人たちが、日本で暮らしていくために自分たちで学校をつくって、一斉に民族教育に取り組みはじめたのです。その時にモットーとして、「力のあるものは力で、お金のあるものはお金で、知恵のあるものは知恵で」民族教育に取り組もう、と熱心に語りあわれたのだそうです。日本の行政による弾圧や排除にもかかわらず、それでも子どもたちに母国の言葉と歴史を学んでほしいという当時の人たちの熱意が今も受け継がれ、地道な民族教育が継続されているのだと思います。

さて、わたしたち北海道特別教区44年目の歩みがはじまりました。今年の主題は「助けあいの心を響かせる」です。残念ながら教区創立の時に抱いた、教勢を拡大して12教会を達成し正式な教区を形成すると

いう目標は遠ざかってしまいました。当時と比べれば、「補助金もない、若い人も少ない、牧師も少ない」というのがわたしたちの状況です。けれどもわたしたちは、当時の人たちの熱意を、今の新しい状況に見あう形で受け継いでいきたいのです。「お金や力」をふんだんに使うことは難しかったとしても、知恵や、工夫や、助けあいでおぎなうて、教区の教会が共に在る宣教の喜びを実感していきたいのです。

そこで今年は、対面修養会を実現したいと準備を始めています。確かに、あれもこれも出来ません。けれども、あれもこれもあきらめてしまいたくはないのです。そういうわけで、モットーは“省エネ”。完全カンペキを求めない。上手に手抜きをして、工夫しながら出来る範囲でやる。でもそれぞれが楽しめるところで学び、楽しみ、親睦を深めたいと思います。みなさんの力を、ちょっとずつお借りしたいと思っていますから、今から10月13-14日(日-休)をご予定いただければ幸いです。



各教会の近況報告

【函館教会】

3月31日(日)のイースター礼拝、それは中島牧師の最後の礼拝でもありました。イエス様の復活を共に喜び、その後の祝会、そして送別会はとても和やかな時間でした。時の流れで礼拝をまもる為には過去に例のない長距離を移動による兼牧体制しかない状況になりましたが、実現出来たのは中島牧師がこの任務を引き受けて下さったからです。

昨年度より始まって、遠距離牧会を長く続けていく為に、次に担う牧師も負担を重くしない為に、先を見据えて無理のない形作りに努めていました。実際身体的にも精神的にも大変で疲労もあったと思いますが、中島牧師は大変なこと、苦難なこと等から楽しさ、面白さ等を見つけ出し喜びに変えてしまう賜物があり、いつも笑顔でそして心温まる礼拝を行って頂きました。最後の礼拝は、死であって終わることがない命が与えられている、神と人、人

と人の繋がりは終わらない、必ず再会出来る、永遠の別れはない、等お話ししてくれました。この1年間の中島牧師の働きとご家族様の支え、多くの方々のお祈りに感謝申し上げます。そして中島牧師のこれからのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

4月1日(月)に中島ご家族様を見送り“次回は河田牧師を迎えて新たな体制が始まるな。”と少しのん気に構えていた矢先、私の伯父の状態が悪化し葬儀を行う可能性が発生。河田牧師に連絡し、本来であれば6日(土)恵み野教会、7日(日)函館教会で初礼拝を行う予定が急遽5日(金)に函館に来て下さり、お見舞いをして頂いた約1時間後に天に召されました。お見舞いは河田牧師の強い意向であったとお聞きしています。7日(日)の初礼拝後に告別礼拝、火葬が執り行われ、無事に終了しました。



按手を受けて牧師となり、長く住んでいた東京から遠く離れ、まだよく知らない北海道に移り“これから牧師生活がはじまるぞ！”と思ったら予定より早く長距離移動。そして礼拝より前に臨終の祈りと葬儀の準備。やや衝撃的な牧師デビューを飾ったと思います。21日(日)には岡田牧師を迎え、河田牧師の就任式があり、礼拝後歓迎会を行いました。共に食事をして、改め

て自己紹介をして頂き、また函館教会の教会員のこと知って頂いたかと思います。とても和やかな時間でした。慌ただしく新体制が始まりましたが中島牧師が作って下さった形を河田牧師が幅を拡げ、恵み野教会、函館教会が益々神様に祝福された教会となりますように、神様に祈り、全てを委ねていきたいと思います。

(岩崎明子)

【札幌教会】

札幌教会では、2月4日(日)に3つの礼拝堂から37人が札幌礼拝堂に集まって総会を行い、新しい年度がスタートしました。今年の教会の主題として「助けあいの心を生きる教会」を決めました。総会で話しあわれたことのひとつは、今年で献堂80年を迎えた札幌礼拝堂の建物調査の事です。この礼拝堂の図面を起こし、歴史的な価値を確認し、中期的な保全計画を立案していただくことを目的に、市の補助も得ながら今年度、建物調査を行っていく計画が話しあわれました。



3月29日午後7時から、札幌礼拝堂にて3礼拝堂合同の聖金曜日受苦日礼拝が行われました。夜のとばりの降りた礼拝堂の聖壇の中央に十字架を立て、7本のろうそくを灯して暗闇を体験する静かな礼拝をともにし、自身の内側の心の闇と対話するひとときをもちました。



今年のイースター、札幌教会では久しぶりにイースターエッグの配布を行いました。札幌北礼拝堂では、土曜日の朝から集まって卵の袋詰めを行いました。聖餐礼拝をともにし後は、おうどんと六花亭のイチゴショートケーキで愛餐をともにし、イースターの賛美歌の歌唱やカエルの絵本の朗読などで、楽しいひとときを共にしました。

札幌礼拝堂では、土曜日にイースターエッグの袋詰め作業を行いました。日曜日のイースター礼拝の後は、スオミホールに会場を移して、美味しいお寿司のお弁当とたくさんの差し入れデザートで賑やかな食卓をともにし、いただいたカードの聖句を紹介し合うなどしてめぐまれたひとときを過ごしました。

新札幌礼拝堂では、有志の方々が茹でてくださった卵をみ言葉カードと共に袋詰めしました。礼拝後は久しぶりのイースターエッグ、お祝いのクッキーをもって記念撮影。昼食はお弁当と差し入れのデザートに舌鼓を打ち和やかにお祝いいたしました。

復活祭、札幌礼拝堂に歴史的な「古時計」が帰ってきました。時計の側面に「贈西岳」と、90年前の献堂直前まで札幌教会を牧された西岳一雄牧師の名前がありますから、90年前の献堂時の時計と思われます。壊れて修理する手立てがなく、事務室の机の下に保管されていたのですが、修理できないかいろいろ探し回ったところ、苫小牧の時計屋さんが修理して下さることになり、この度無事に礼拝堂に帰ってきたのです。今や貴重なゼンマイ式の壁掛け振り子時計。毎週ネジを捲くのも楽しみです。



長年ネパールで医療支援を行われている檜戸健次郎医師による、「ネパール地震災害支援報告会」も各礼拝堂にて行われました。新しい災害が起こると前のものが忘れられがちですが、祈りに覚え続けたいと願います。

札幌教会では、毎月第4水曜日に北礼拝堂を会場に、平和を学ぶ会を行っています。2月には小泉章夫さんがパレスチナ問題についてお話し下さり、3月には世界祈祷日の祈り、4月には小泉牧師が戸籍制度の問題点について発題を行いました。毎回10人前後が集まって、平和で暮らしやすい社会の実現のために学びを深めています。(小泉基・岡田薫)



【帯広教会】

今年の総会は2月3日(土)の主日礼拝後に行われました。役員改選が行われるので、どうなるだろうかと心配しておりましたが出席者の話し合いによって無事に決まりました。十勝豆の係も3人体制になり、それぞれの体調や家の事情を調整しながら、出来ることを出来る時に出来るだけ、喜びをもって担っていこうという思いを皆でわかちあうことが出来ました。

早速新役員は、今年度の諸行事(釧路の野外礼拝、聖書の学びの内容や日程など)についての希望をアンケート調査しました。その結果、釧路の野外礼拝の日程・場所が決まり、学びについては「聖書通読の集い」(音読して聖書通読を目指す)と「聖書に親しむ集い」(テサロニケの信徒への手紙)を行うこととなり、それぞれ月1回始めているところです。また、教会員同士で施設に入っている方を訪問したり、教会に来ることが困難な方をお訪ねするなどしています。少しずつ対面でお話しできる環境になってきたことを嬉しく思います。



コロナ禍にあって集うかたちでの開催が中止されていた世界祈祷日礼拝も3月1日(金)にメノナイト帯広教会を会場にハイブリットで開催されました。十勝地方では実に5年ぶりの開催です。教会には48名が集い、私たちも参加することができました。

3月30日(土)の復活祭には久しぶりに来会された方もあり、共にお弁当を頂き、歓談の時間を与えられ皆で喜びあいました。5月4日(土)には檜戸健次郎医師による「ネパール地震支援報告会」が行われ、18日(土)の聖霊降臨祭は持ち寄りの軽食&お楽しみ会を予定しています。教会員同士の繋がりを強めお互いを思い、身近な方から地域の方へと出来ることをひとつひとつ計画して歩んで行けたらと願います。(有働あけみ)



【恵み野教会】

7年前に恵み野教会に就任された中島和喜牧師は4月から大江教会へ転任され、後任に河田礼生牧師が着任されました。

3月29日(金)に中島家の引越し荷物が搬出され、直ちに専門業者が牧師館の修繕に取りかかりました。その日は主の受難日でもありましたので、信徒だけで受苦日の祈り会を行いました。教会讃美歌86の第一から第七まで、声を合わせ静かに祈りました。

翌30日(土)は復活祭で中島牧師の恵み野教会での最終礼拝日でした。ご家族の結実枝さんと瑞貴ちゃんも出席され、瑞貴ちゃんの讃美の歌声は私達の心を和ませてくれました。礼拝後の祝会では中島牧師の送別会も兼ねて行われました。食事会は一品持ち寄りで行い、中島牧師の好物の肉料理が沢山並びました。

中島牧師への感謝を込めたスピーチ、ハーモニカ演奏、ハープの演奏と祈り、全員による教会讃美歌370、牧師夫妻による教会讃美歌387、そして瑞貴ちゃんは213を歌ってくれました。和気あいあいと楽しんだのも束の間、2時過ぎには名残惜しくも玄関先でお見送りしました。

4月1日(月)に河田礼生牧師が着任されました。牧師館は塗装の匂いが残って

いる為、一階の和室を使って頂きました。老朽化による修繕は4月17日(水)までかかって一応終了しましたが、経費の関係で次回に持ち越したところもあります。ピカピカとまではいきませんでした。新任の河田牧師に快適に住んで頂ける程度になったと思います。

着任された河田牧師は5日(金)に重篤な方のお見舞の為に急に函館教会へ行かれ、6日(土)は信徒礼拝になりました。ご臨終に間に合ったとお聞きした時には、ほっとしました。全ては神様の慈しみのもとで進行していること実感しました。

13日(土)に河田牧師の最初の礼拝がありました。礼拝後、歓迎会の食事会、就任式と続きました。就任式の司式は小泉基牧師が執り行いました。因みに食事会のちらし寿司は礼拝後、皆で賑やかに手作りしました。歓迎会と就任式に露木夫妻が飛び入り参加して下さい、一層明るく賑やかになりました。

直近の予定では、27日(土)の礼拝後にすぐ近くにある恵み野中央公園でお花見をします。お花見弁当も予約しました。天気予報は晴れです。あとは小さな蕾が開きますように、桜の木を毎日見上げています。

(佐藤光子)



(中島ご一家を囲んで)

ようこそ！教区の新しい仲間として着任された
河田礼生牧師に自己紹介をお願いいたしました。

北海道特別教区に集う皆さま、こんにちは。4月より、恵み野教会と函館教会の主任牧師として赴任いたしました河田礼生(かわたれお)と申します。洗「礼」によって「生」まれ変わり、「礼」拝に「生」かされていると覚えてください。そういう意味では皆さんも礼生になってしまいますが…。名前に関しては「兄弟の名前」、「ウルトラマンレオ」とキリスト教にまつわる小ネタがあと二つありますので、もし興味があればお会いする機会にお尋ねください。

私は1996年に広島で生まれ(6ヶ月)、山口で育ち(9年)、東京に染まり(18年)、北海道に希望を抱いています(1ヶ月)。現在は27

歳、日本福音ルーテル教会で最年少の牧師となります。未熟な部分も多いですが、教区の牧師、教会の皆さまの祈りに支えられながら、何よりも神様により頼んで、世の光、地の塩としての歩みを楽しんでいきたいと思っております。

好きな食べ物はモンブラン、趣味はリアル脱出ゲーム(謎を解いて部屋から脱出するアミューズメント)と、合唱です。大学時代には聖歌隊で歌っておりました。因みに好きな讃美歌はEventide(教会讃美歌466)とBrother James' Air(讃美歌21;140)です。



(河田牧師歓迎会)

北海道特別教区は一体感があるというのが最初の印象です。私が兼牧をしている恵み野教会と函館教会が祈り合い、声を掛け合うことで、お互いを思いやる姿を間近で見ていると、とても励まされます。兼牧ゆえに、これから大変なことも増えると思いますが、それ以上に恵みなことだと感じています。

また新任の赴任地が決まった時にはそれぞれの教区長から歓迎の連絡があるのですが、唯一、北海道だけは着任前から教区の全

牧師が歓迎の電話をかけてくださいました。少ないからということもあるかもしれませんが、だからこそ支え合い、共に歩いていく力強さが北海道特別教区にはあるのでしょう。それはまさにイエス様の愛が全うされている、キリストの体である教会の姿です。

これから北海道のことをもっと知っていきながら、北海道の牧師として、み言葉を宣べ伝えていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

善き力にわれ囲まれ

中島和喜

7年前、北海道に遣わされた際に教会の皆さんからは「放流した鮭が帰ってきた」と暖かく迎え入れていただきました。右も左も分からない中であって「生まれ故郷」というのはそれだけで安心するものでありました。

7年間を振り返ると色々なことが思い出されます。とにかく必死だった初年度、少し落ち着いたかと思った2年目は胆振東部地震が襲い、その1年半後にはコロナの流行。



(大江教会礼拝堂にて)

熊本に転任された中島和喜牧師より、北海道特別教区の皆さんへメッセージが寄せられました。感謝！

コンサートやバザーを閉じる決断。礼拝を閉じる決断。常に迷いの中で、手探りで歩いていきました。礼拝や行事だけではありません。牧師館の取り壊しもあれば外壁工事もありました。教区の状況も大きく変わり、最後の一年間は恵み野と函館を兼任するという生活が一変することもありました。こうして羅列すると中々に激動の7年間だったように思います。

けれど、結局のところ大変だったという記憶よりも、嬉しく楽しい思い出の方が多く心に残っています。教区修養会やバザーやフェスタ。行事に限らず普段の日常での集いもまた楽しい思い出がたくさんあります。生まれ故郷の帯広や池田や釧路に尋ねられた際には懐かしさと感動を覚えました。中々関わる機会の少なかった函館にも、最後の年は50回以上も旅行することができました。どれも私にとって思い出すだけで元気づけられる豊かな思い出です。激動の7年間の中でこれだけの思い出を手にすることができたのは、主が共におられ、どんな苦難があっても慰め励まし元気づけて下さったからでしょう。だから、最後には豊かさしか残らないのです。その確かさを私はこの7年間で真実であると受け取る事ができました。

放流した鮭が木彫りの熊のようになりましたが、北海道とは不思議なほどに縁が深い私の人生であるように思いますので、きっとまた関わる機会が与えられるはずです。その時にはまた笑ってお会いしましょう。7年間ありがとうございました。



教区常議員の紹介

3月21日に行われた教区総会で、2年ぶりに新しい常議員の方々が選任されました。これまでご奉仕下さった岡田ひとみさん(会計:帯広)、太田満里子さん(社会奉仕部:恵み野)、中島和喜牧師(教育部:恵み野/函館)が退任、代わって新しく岡村隆行さん(会計:函館)、松島直子さん(社会奉仕部/全国常議員:札幌)、岩崎明子さん(教育部:函館)がご奉仕下さることになりました。

岡村隆行さんは、函館教会を会場に活躍するゴスペルグループMSCの代表として各地で活躍なさるかたわら、お仕事がコンピューター関係ですので、その方面でも教会でご奉仕下さっています。松島直子さんは、札幌教会のめばえ幼稚園出身で教会青年会でも活躍なさり、いまは札幌教会の代議員を担って下さっています。岩崎明子さんは、岡村さんとともにMSCを草創期から支えて来られたメンバーで、福祉関係のお仕事をなさっておられます。

以上の、新たに加わって下さった方々と一緒に常議員を担って下さるのは滝田裕美さん(伝道:札幌)。新札幌礼拝堂の奏楽者としてご奉仕下さるほか、札幌教会では書記として役員会を支えてくださっています。継続して教区長を担うのは札幌教会の小泉基牧師。教区長は九州で2期、北海道で3期目で通算5期目となりました。書記・財務は岡田薫牧師。教区については表も裏も知り尽くす教区在職22年です。(小泉基)



(教区総会閉会礼拝)



(教区総会にて挨拶される中島和喜牧師)



(第44期教区常議員)